

第 4 回 那賀川水系 流域委員会

河川整備の実施に関する事項
(利水、環境・地域との関わり) について

令和 8 年 1 月 30 日

静岡県下田土木事務所

本日の主題

静岡県第4次地震被害想定を反映し、平成28年6月に那賀川河川整備基本方針を策定した。
那賀川河川整備計画は、那賀川整備基本方針策定後、令和3年1月26日に第1回、令和6年2月6日に第2回、令和7年3月14日に第3回流域委員会を実施した。

河川整備計画 検討

1. 流域及び河川の概要
2. 流域及び河川の現状と課題
3. 河川整備の目標に関する事項
4. 河川整備の実施に関する事項(治水)
4. 河川整備の実施に関する事項(利水、環境・地域との関わり)

河川整備計画(原案)

パブリックコメントの実施

河川整備計画(修正原案)

関係町(松崎町)への意見聴取、
関係部局(県庁内)協議、国への同意申請

河川整備計画策定

流域委員会

第1回流域委員会
令和3年1月26日開催

第2回流域委員会
令和6年2月6日開催

第3回流域委員会
令和7年3月14日開催

第4回流域委員会
令和8年1月30日開催

第5回流域委員会
令和8年度開催(予定)

目次

1. 河川の現状と課題について

1. 1 那賀川流域の利水

1. 2 那賀川流域の環境・地域との関り

2. 河川整備の目標と実施内容について

2. 1 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標設定と実施内容

2. 2 環境・地域とのかかわりに関する目標設定と実施内容

1. 河川の現状と課題について

1. 河川の現状と課題について

那賀川流域における利水、環境・地域との関わりに関する「河川の現状と課題」を整理した。

1.1 那賀川流域の利水

1.2 那賀川流域の環境・地域との関わり

1.1 那賀川流域の利水

1.1 那賀川流域の利水

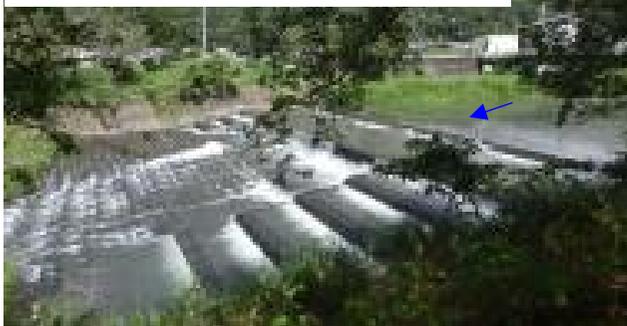
【現状と課題(水利用)】

那賀川水系の流水は、**慣行水利36件が農業用水**として利用されている。

流域内の各河川には**漁業権**が設定され、**地元の漁業協同組合によりアユ、アマゴの放流**が行われており、春から夏にかけて釣り客も多数訪れている。

河川の適正な利用を維持するため、流況の把握に努め、地域住民や関係機関と連携して**流水の適正かつ合理的な利用に努める必要がある**。

中島頭首工（那賀川、松崎町伏倉）



柳原頭首工（岩科川、松崎町岩科北側）



資料:松崎町提供

図 頭首工の様子



図 那賀川水系の取水施設位置

1.2 那賀川流域の環境・地域との関わり

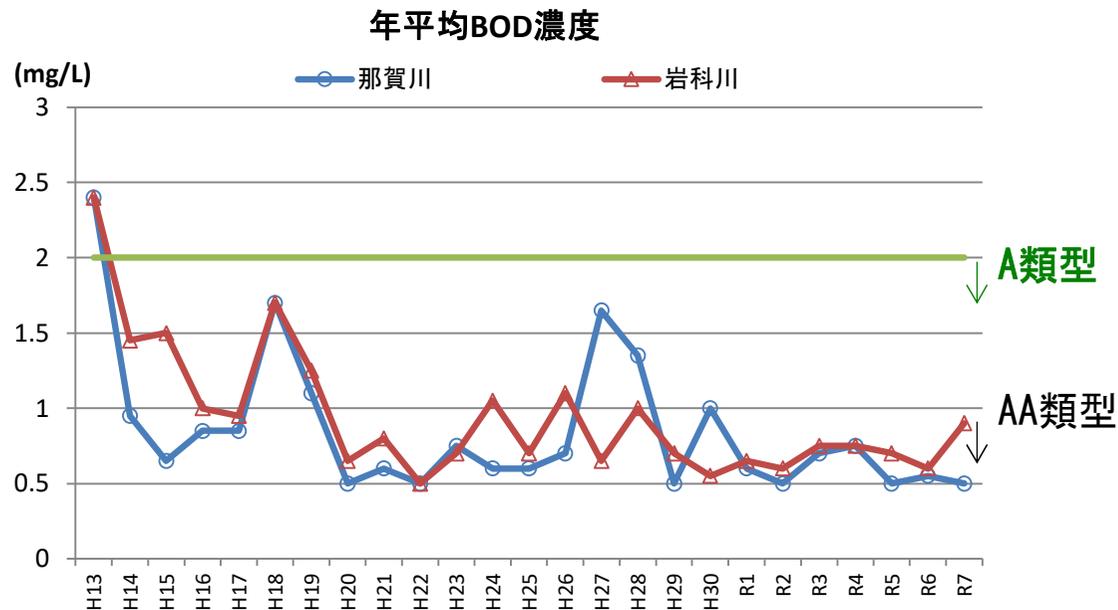
1.2 那賀川流域の環境・地域との関わり

【現状と課題(生活環境)】

那賀川流域では「生活排水処理長期計画(令和2年2月)」に基づき**合併処理浄化槽の設置**が進められている。また、那賀川流域近傍の農業及び漁業に対しては、**集落排水処理施設が稼働**している。

水質については、現在環境基準の類型指定はされていないものの、那賀川の宮の前橋、岩科川の宇治橋で行った水質調査*で水質観測が実施され、平成13年以降の松崎町の調査結果では、両地点ともBOD値は約0.5~1.5mg/Lで推移しており、**概ね環境基準のA類型相当**である。今後も、**良好な状態を保つことが求められている**。

*水質調査の詳細(調査機関:松崎町、年間に対する調査頻度:2回(夏期、冬期)、年間評価値の算出方法:2回の計測値の平均より算出)



資料:松崎町提供

図 那賀川・岩科川における水質(BOD)の経年変化



図 那賀川・岩科川における水質観測地点

1.2 那賀川流域の環境・地域との関わり

【現状と課題(自然環境)】

キイロサナエ(絶滅危惧 I B 類(EN))などの希少種が確認されている一方、特定外来生物のアメリカザリガニなど外来種の生息も確認されている。

冬季には河口部の汽水域において、**松崎町特産であるカワノリ(主にヒラアオノリ、ボウアオノリ)**が生息している。上流部では、アマゴ(絶滅危惧 II 類(VU))やヨシノボリ類、ヤマトヌマエビなどの渓流域に生息する種が確認されている。

中流部では、流れの緩やかな淵にスミウキゴリが生息し、両側回遊性のボウズハゼなども確認され、5月の中旬から6月上旬にかけてゲンジボタルがみられる。

下流部ではカマキリ(アユカケ)(絶滅危惧 II 類(VU))やアユ、ニホンウナギ(絶滅危惧 I B 類(EN))などの回遊魚が生息しており、潮の影響を強く受けた生態系を創り出している。



アマゴ

【出典：ズカンドットコム】



カマキリ

【出典：静岡県版レッドデータブック】



ニホンウナギ

【出典：静岡県版レッドデータブック】



キイロサナエ

【出典：静岡県版レッドデータブック】



カジカガエル

【出典：静岡県版レッドデータブック】

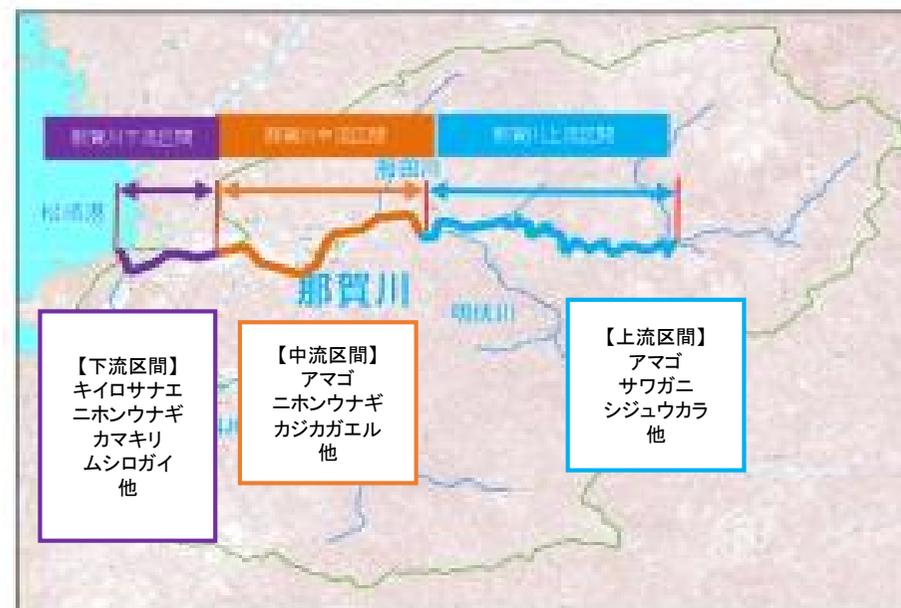


図 那賀川流域で確認されている希少種(抜粋)

1.2 那賀川流域の環境・地域との関わり

【現状と課題(自然環境)】

那賀川水系では多種多様な動植物が生息・生育している。流域だけでなく地域の重要な財産であるため、静岡県や松崎町、流域住民と連携した自然環境の保全が必要である。

また、河道内には堰等の横断工作物が多数存在し、河川における上下流の連続性の障害となるなどの課題も見られる。

表 那賀川流域で確認されている希少種

	科名	和名	学名	希少種指定	
				静岡県	環境省
鳥類	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)	—
	サギ	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	—	準絶滅危惧(NT)
	チドリ	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	準絶滅危惧(NT)	—
	カモメ	オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>	—	準絶滅危惧(NT)
	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)	準絶滅危惧(NT)
	タカ	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	準絶滅危惧(NT)
	タカ	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
	フクロウ	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	—
	カワセミ	ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	絶滅危惧ⅠB類(EN)	—
	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
	カササギビタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	準絶滅危惧(NT)	—
	ツバメ	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	—
	ヒタキ	ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	要注目種 (N-Ⅱ:分布上注目種等)	—
	両生類	ヒキガエル	アズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)
アカガエル		タゴガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)	—
アカガエル		ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>	準絶滅危惧(NT)	—
アオガエル科		カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	準絶滅危惧(NT)	—

	科名	和名	学名	希少種指定	
				静岡県	環境省
魚類	ウナギ	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	絶滅危惧ⅠB類(EN)	絶滅危惧ⅠB類(EN)
	コイ	ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	—	絶滅危惧ⅠA類(CR)
	ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	情報不足(DD)	準絶滅危惧(NT)
	サケ	サツキマス(アマゴ)	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	準絶滅危惧(NT)
	ヨウジウオ	カワヨウジ	<i>Hippichthys spicifer</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)	—
	ヨウジウオ	テングヨウジ	<i>Microphis brachyurus brachyurus</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)	—
	ボラ	ナガレフウライボラ	<i>Crenimugil heterocheilos</i>	—	絶滅危惧ⅠB類(EN)
	メダカ	メダカ類	<i>Oryzias sp.</i>	絶滅危惧Ⅱ類(VU) (ミナミメダカ)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
	カジカ	カマキリ(アユカケ)	<i>Rheopresbe kazika</i>	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
	カワアナゴ	カワアナゴ	<i>Eleotris oxycephala</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)	—
	カワアナゴ	チチブモドキ	<i>Eleotris acanthopoma</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)	—
	カワアナゴ	テンジクカワアナゴ	<i>Eleotris fusca</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)	—
	ハゼ	タネハゼ	<i>Callogobius tanegasimae</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)	—
	ハゼ	ヒナハゼ	<i>Redigobius bikolanus</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)	—
	ハゼ	クロコハゼ	<i>Drombus sp.</i>	要注目種 (N-Ⅲ:部会注目種)	—
	ハゼ	ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>	要注目種 (N-Ⅱ:分布上注目種等)	—
底生物	サナエトンボ	キイロサナエ	<i>Asiagomphus pryeri</i>	絶滅危惧ⅠB類(EN)	準絶滅危惧(NT)
	ムシロガイ	ムシロガイ	<i>Niotha livescens</i>	—	準絶滅危惧(NT)
	ベンケイガニ	ベンケイガニ	<i>Sesarmops intermedius</i>	—	準絶滅危惧(NT)
	モクズガニ	台湾ヒライソモドキ	<i>Ptychognathus ishii</i>	—	準絶滅危惧(NT)

1.2 那賀川流域の環境・地域との関わり

【現状と課題(地域との関わり)】

町市民の憩いの場所やレクリエーションの場に適したオープンスペースとして利用されている他、アユ釣り、水遊びの場としても利用されている。流域内では、神社の祭典及び神楽奉納の前日に宵祭りの一つとして行われる清めの儀式「洗垢離」や、お盆に行われる灯籠流しなど川にまつわる伝統行事も残されているなど、地域住民との関わりが深い。

堤防道路は地域住民の通勤・通学・農作業等の生活道路となっている。那賀川の中流域では、地域の中学校の生徒がビオトープを整備するなどし、ホテルを中心とした保全活動に取り組んでいる。

住民アンケート調査(平成8年)によると、伏倉橋上流、南郷土手などの桜風景が重要視されている。その他、冬季には河口域で松崎町特産のカワノリが生息し、採取の光景は冬の風物詩となっている。

アンケート概要

平成8年度の地域住民に対するアンケート調査
(平成8年度 二級河川稲生沢川水系ほか河川環境管理基本計画策定調査業務住民意識調査)
那賀川の「好きな景色」「残しておきたい自然」への回答。

問.好きな景色

- ①大沢温泉周辺の景色 (10件) : 清流、桜、石
- ②川沿いの花々 (9件) : 菜の花、浜大根
- ③桜 (47件) : 主に、大沢温泉、伏倉橋上流、南郷土手、松崎バイパスなど
- ④河口 (6件) その他多数。

問.残しておきたい自然

- ①河口～宮ノ前橋みやのまえ : 清流を鯉などが泳いでいるのがすばらしい。
- ②伏倉橋ふしくらばし～上流 : コンクリートで固められていない風景。桜並木。シラサギ等が見られる。
- ③建久寺けんきゅうじ付近 : 河岸にはヨシがあり、堤と道路には竹と桜がある。(道路から眺めた景色が良い)
- ④旧中川きゅうなかがわ小学校前の吊り橋から上流 : ホテルの生息地を是非残しておきたい。土手の紫陽花、菜の花、雪柳等の草花



出典: 松崎町HP



出典: 松崎町HP

図 河川空間利用
(左: 鮎の友釣り、右: カワノリ採取)

1.2 那賀川流域の環境・地域との関わり

【現状と課題(地域との関わり)】

静岡県では、**リバーフレンドシップ制度の活用**により、地域住民による川の清掃や除草等の河川美化活動を積極的に支援しており、那賀川水系においても、**船田区・大沢区において除草・清掃等の愛護活動が行われている。**

今後、那賀川に対する関心や親しみを持った川と人との良好な関係を継続させ、**引き続き那賀川流域を軸とした活動等に住民の積極的な参画が得られるよう、松崎町や地域住民との一層の連携が必要である。**

【リバーフレンドシップ制度】

市町名	河川名	団体名	締結年
松崎町	那賀川	松崎町大沢区	平成20年度
	船田川	松崎町船田区	平成20年度



資料：静岡県河川砂防局HP

図 静岡県リバーフレンドシップの概要



出典：松崎町HP

図 中学生による地域ボランティア

【地域ボランティア】

那賀川中流区間：南郷・鮎川地区

【松崎中学校ホタルボランティア】

河道内の洲を整備し、ゲンジボタルやその餌となるカワニナの生育に適した環境を提供する活動を行っている。

2. 河川整備の目標と実施内容について

2. 河川整備の目標と実施内容について

那賀川流域における河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、環境・地域との関わりに関する「河川の現状と課題」を踏まえ、「各項目の目標設定と実施内容」について整理した。

2. 1 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標設定と実施内容

2. 2環境・地域との関わりに関する目標設定と実施内容

2. 1 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標設定と実施内容

2.1 利用・機能維持に関する目標設定と実施内容

利水

環境・地域との関わり

＜河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標設定＞

- 河川の適正な利用と流水の正常な機能の維持に関しては、引き続き**流域の把握に努め、農業用水などの既存の水利用や動植物の生息・生育環境、景観などに配慮しつつ**、松崎町や地域住民と連携して家庭等の**汚濁負荷量の一層の削減を目指す**。
- また、河川に関わる森林などの多面的機能の保全についても関係機関と連携した取組を促進して、**健全な水循環系の維持を目指す**。
- 水質については、多様な動植物が生息・生育し、豊かで清らかな水環境を保全・創出するため、**引き続き松崎町や関係機関及び地域住民と連携し、汚濁負荷量の更なる削減を働きかける**。

＜河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する実施内容＞

- 水量については、**引き続き河川における流況等の把握に努め**、関係機関や流域住民と連携し、**治水、利水、環境の調和した適正な河川利用を図る**。
- 水質については、現在環境基準の類型指定はされていないものの、BOD値は約0.5～1.5mg/lで推移しており、概ね環境基準のA類型相当である。良好な水質が保たれていることから、**この状況が維持又は向上されるよう**、松崎町による**合併処理浄化槽の普及や汚濁の防止に関する啓発活動などについて関係機関と連携して取り組む**。

2. 2 環境と地域との関わりに関する 目標設定と実施内容

2.2 環境・地域との関わりに関する目標設定と実施内容

環境・地域との関わり

<環境に関する目標設定>

- 地域住民との連携によって自然環境、地域特性、景観、観光、水辺空間等の様々な視点から治水・利水面との調和を図る必要がある。那賀川水系では多様な動植物の生息・生育・繁殖環境が形成されている。また、河口部周辺の汽水域に繁茂する、カワノリを採取する光景は冬の風物詩になっている。
- そのため、河川整備にあたっては、このような多様な動植物が生息・生育している那賀川の自然環境を踏まえ、河川における上下流の連続性の確保やカワノリが生育できる浅場の保全などに対して最大限に配慮し、河川が有する自然の営力を活用して河川本来の多様な動植物が生息・生育している水辺環境の保全を図る。
- 在来種への影響が懸念される特定外来生物については、学識者や関係機関と連携し、外来生物被害予防3原則(入れない・捨てない・拡げない)の普及に努める。

<環境に関する実施内容>

- 那賀川水系では希少種が確認されており、こうした動植物の生息・生育する自然環境を那賀川らしい地域の財産のひとつとして、関係する流域住民や行政が共通の認識をもって、河川に多くの人が目を向け関心を寄せていくよう、流域内で連携を図りながら那賀川水系の河川環境の保全を図っていく。
- 今後、落差工などの横断構造物の改築や更新等にあたっては、地域住民の意見を伺いながら河口から中流域において、魚類等の河川上下流への移動に配慮した魚道等を設置するよう検討する。また、那賀川らしさを特徴づける河口部周辺の汽水域においては、カワノリが生育できる浅場の保全を図るため、河川整備による影響を極力抑えるための措置について、特に配慮する。
- 河川占用工作物の管理者が行う堰等の施設の改築や維持工事においても適切な環境対策が図られるよう、実施者に積極的な情報提供や必要な連携を行う。
- 在来種への影響が懸念される特定外来生物については、関係機関や学識者と連携し、外来生物被害予防3原則(入れない・捨てない・拡げない)の普及に努める。

2. 2 環境・地域との関わりに関する目標設定と実施内容

環境・地域との関わり

＜河川と地域との関わりに関する目標＞

- 松崎町の歴史や風土、自然との調和を図りつつ、河川環境や防災に関する情報を地域住民等と幅広く共有し、河川愛護の精神がさらに広がり、**那賀川と人との良好な関係を継続するため、引き続き松崎町や地域住民等との良好な関係構築に努める。**
- また、汽水域におけるカワノリの採取、鮎釣りなどの四季折々の風物詩、那賀川を昔ながらの佇まいを残す温泉やなまこ壁などの歴史ある町並みと調和した水辺空間など、那賀川ならではの歴史・風土と地域資源を活かしながら、**流域住民や関係機関等と連携し、住む人にも訪れる人にも美しく魅力ある水辺づくりを目指す。**

＜河川と地域との関わりに関する実施内容＞

- 関係機関が連携・協力した地域住民の迅速な避難と被害の最小化に向けた防災意識の向上など、**ハード対策とソフト対策を一体的かつ計画的に進める取り組みを推進していく。**
- 河川に関する様々な情報を幅広く提供して**流域住民の河川に対する意識向上を図る**ことにより、河川環境の保全や治水対策についての理解や関心を流域住民が高め、河川行政全体への理解を深めるとともに、地域防災力の向上も視野に、**上下流連携の取組や流域住民の主体的な川づくり活動を支援**していく。
- また、リバーフレンドシップ制度などを活用しながら**地域での取組みを積極的に支援、協力**して、住民の自発的な川づくりへの参画を促す。